

会 議 録

日 時	令和8年6月16日(火)14:00~16:00
場 所	総合文化センター 視聴覚室
件 名	令和8年度 第2回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員:伊藤恭司、井貝順子、平尾巖、板橋晋司、工藤将哉、磯貝直美、鈴木圭子、加藤一哉、曾我順一、加納礼爾 欠 席:松井克仁 事 務 局:加納素介(中央公民館副館長)、中村勝、工藤菜々子(生涯学習課)
議 題	1 開会の言葉(平尾副代表) 2 挨拶(加藤代表) 3 研修「研究の方向についての検討」 ・家庭教育支援の動向について ・家庭教育を取り巻く現状と課題 ・瑞浪市の現状 資料参照 ・意見交流 (加藤代表より)研究調査をどのように進めていくかを皆さんの意見を伺いたい。瑞浪市の家庭教育支援について、「保護者や子供がどのような意識、課題をもっているのか調査研究していくことに意味がある」という考えで進めていきたい。 意見 親の向いている方向と、行政との方向性が少しでもずれるとうまく支援できない。どのように支援するのか、子どもに対するアプローチか、親に対するアプローチか、ターゲットを絞るべきなのではないかと思う。 意見 やはり今の実態が知りたい。家族構成や、核家族、外国籍の方など。学童や児童館との連携をするなど、ここに家庭支援の入口があればよいと思う。 意見 地域と結びつきがないということで、放課後の子どもの受け入れ先を探している保護者も増えてきている。このような方とつながることで課題解決の入口が見えると思う。現在、放課後の子どもたちの居場所について、瑞浪市では地区に任せているので、こういった部分も含めて考えたほうがよいと感じる。また、PTA や学校など、さまざまな部門と連携することが大事なのではないかと思う。 意見 家族や家庭はこうあるべきといった考え方を突き崩して、今までとは違う提言が出せるとよいのでは。また、家庭教育とはいえ、地域との関わりがある方がよいと思う。

意見 母親学級などで、同じ悩みがあることはわかるが、解決がないと聞いた。保護者の立場で考えないと、切り込み方はわからないのではないかなと思う。

意見 今と昔では、保護者の子に対する理解が変化してきている。そのため、例えばスマホの使用に関しては、スマホとうまく付き合っていく方法を保護者へ伝えること（制限のためではなく、保護者の理解を深めること）が大切だと思う。

意見 地域のイベントが家庭教育を支援していることがある。そのため、地域のイベントやお祭りの際に、子育て親が参加したくなるようなコーナーを設置できないか。いろいろな人の目に留まる場所に、家庭教育に関するものがあつた方がよいのではと思う。

意見 過去に防災に関する講座が開催されたときに、保護者同士がつながることができる場になっていた。このような場を集め、広めることで支援していけるのではないかな。また、広め方に関しては、地域内での口コミだけでなく、SNS を活用する方法もよいと思う。

4 今後の予定について

- ・その他
- ・連絡事項

5 閉会の言葉（平尾副代表）